



よろい
甲を着た古墳人だより



火山灰下から古墳を発見！

金井東裏遺跡では、平成 24 年 11 月 19 日、古墳時代（6 世紀初頭）に発生した榛名山の噴火に被災した「甲を着た古墳人」の発見以降、周辺の調査が進み「首飾りの古墳人」など複数の被災者の存在や、火山灰に残された足跡、土器集積遺構（祭祀跡）、平地建物など、周辺の環境が明らかになりつつあります。

現在は、「甲を着た古墳人」の北側約 100m の地点で発見された 1 号古墳を調査しています。古墳は、厚さ 2m 以上も堆積した 6 世紀中頃の榛名山二ツ岳軽石の下に完全に埋もれていました。墳丘の直径が 15 m ほどの円墳で、高さは 1.6 m、堀の外側までの直径は 23.4 m ほどあります。古墳が築造された時期は、5 世紀後半と考えられるので、古墳は、これまでに見つかっている甲を着た古墳人などが被災する以前に亡くなった人が埋葬されたものです。



1 号古墳の全景（西から）

墳丘の側面には^{ふきいし}葺石がりましたが、西からの火砕流の直撃を受けて、西側の葺石はすべて失われ、盛土の一部も削られていました。葺石で残りの良い南側や北側部分を見ると、幅1mほどの間隔で縦に石を直線的に並べて区画し、間を石でうめるような簡略な積み方をしています。



1号古墳の葺石

遺体埋葬施設は、南北に並んで2か所見つかりました。南側の大型の埋葬施設（第1主体部）が先に造られたものと考えられますが、どちらも古墳の中央にはないことから、当初から2か所の埋葬施設を造ることが計画されていたものと考えられます。



2か所並んだ埋葬施設

第1主体部は、長方形の土坑の中に、遺体を木棺におさめて頭を東向きに置き、木棺の周りに石を配置した後で埋めたと考えられます。石で囲われた範囲は、長さ2.6m、幅0.5mです。遺体の左側には鉄剣、右側には大刀を置いています。さらに、左側の棺の外には鉄鏃が数本置かれていました。なお、木棺および人骨は残っていませんでした。



第1主体部遺物出土状況

第2主体部は、長方形の土坑の中に小型の石室を組んで、遺体を直接おさめた「^{だてあなしき}竪穴式小石槨」で、石槨の内側の大きさは、長さ1.8m、幅0.4mです。遺体をおさめた後に扁平な石で蓋をし、粘土で隙間をうめ、さらに石で覆っていました。石槨の東寄りの底からガラス製の勾玉と小玉が出土していることから、頭部を東にして埋葬されたものと考えられます。



第2主体部天井石出土状況

副葬品からみると、この2つの主体部に埋葬されたのは、男女2人の可能性があります。



第2主体部遺物出土状況